

「市長、出勤！まちトーク in 鍋島」議事録

令和8年2月14日（土）

鍋島公民館

※意見交換の内容は要約しています。
(太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。)

【意見項目】

- 1 水路の維持管理について
- 2 九州グリコ工場の跡地について
- 3 嘉瀬川河川敷の活用について
- 4 放課後児童クラブについて
- 5 自衛隊佐賀駐屯地について
- 6 県立大学について
- 7 鍋島地区のまちづくりについて
- 8 佐賀道路 JCT、新幹線について
- 9 PTA 活動について
- 10 植木橋木角線、介護予防講演会、相談の場について
- 11 交通安全対策について

【意見交換内容】

1 水路の維持管理について

市長の講演の中で、治水対策に関するお話がありました。

鍋島町江里地区は、農地水（多面的機能支払交付金）の制度を活用して水路の浚渫をおこなっていましたが、15年経って泥が溜まっています。豪雨になると、あぜ際まで水が来ており、排水が悪い状況です。

自治会や地区の農地水担当の人に、浚渫から14～15年経つし、災害対策にもなるので浚渫してほしいとお願いしていますが、なかなか進みません。

水が増えると引き際に法面が崩れて、あちこち傷みます。

そのたびに、農地水の活動組織で、5m、10mと少しずつ対応していますが、できれば浚渫をきちんとして、防草シートなども含めて取り組んでいただけたらと思います。

(市長)

水路の維持管理についてのお話をいただきました。

市内の水路には、外来種の水草が繁茂しています。繁殖力が強く、繁茂すると水の流れを悪くしてしまいますので、早め早めに対策していくということがとても大事だと思っています。

河川清掃を毎年春と秋にやっていただき、40年以上続いている一方で参加者の高齢化が進

んでいるので、どう省力化していくかということも大事な課題だと思っています。

クリーク対策の予算を令和 6 年度から令和 7 年度にかけて 1.3 倍に増やし、今年度は 4 億 3,000 万円の予算規模で取組んでいます。令和 8 年度はさらにこれを増やしていきたいと思っています。

市内には、河川と農業用クリークなどの水路が網の目のようにあります。

河川清掃では、地元企業の皆さんが協力パートナーとして協力いただいているので、そうしたパートナーの輪も広げていきたいと思っています。

2 九州グリコ工場の跡地について

神野にグリコの跡地がありますが、広い敷地がどんなふう to 活用されるのか気になっています。企業の持ち物でしょうから、市ができることは限られていると思いますが、状況を知りたいです。

(市長)

現在、神野公園のリニューアルを進めています。こども遊園地や池のほわりには人がたくさん来られているので、その先の動線として、例えば、マルシェをできるようにすることや、老朽化した小動物園の跡は芝生公園にしていくことを考えています。

その神野公園のすぐ南にあるグリコ工場の跡地については、グリコさんとしても思い入れのある土地だということで、自社で活用したいという意向をお聞きしています。

国スポの時には、跡地を駐車場として利用させていただくなど、いろいろとご協力いただいたところです。土地を所有されているグリコさんの意向を踏まえながら、機会があればお話を聞いていきたいと思っています。

3 嘉瀬川河川敷の活用について

バルーン大会は、もう 30 年くらい続く大きな大会で、世界大会にもなりました。会場の敷地がすごく広いので、バルーン以外の時期にも、他のスポーツ大会や競技会など、人が集まるようなことをもっと考えられないでしょうか。バルーンだけではもったいないと思います。

(市長)

お話いただいたとおり、バルーンフェスタ期間中は、多くの方が会場にお越しいただくことで、大変な賑わいが生まれています。

一方で、会場の河川敷は堤防の内側にあります。国が管理する河川区域の一部になるため、常設的な構造物を作ることは難しい面があり、バルーンフェスタについては、特別に許可をいただいで開催しています。

昨年度のバルーンフェスタは、大雨のために、会場内に設置したものを全て撤去することになりました。災害対応との関係が課題になると思っています。

(参加者)

モトクロスバイクの大会のように、常設の建物がなくてもできる競技やイベントがあります。

すごく広い場所なので、全国から人が来てくれるような大会を開催するなど、うまく使った方がいいんじゃないかと思います。

(市長)

いただいたアイデアは、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

4 放課後児童クラブについて

先般、放課後児童クラブの調査について佐賀市の対応が全国の指針からずれていたとの報道がありました。新聞に掲載されていた市長の回答が気になっていました。

(市長)

放課後児童クラブの件については、お話しいただいたように、課題があったと思っています。

私も、改めて実態やこれまでのやり方をよくヒアリングし、受付のやり方を見直しました。

並行して、先ほどの講演で申し上げたように、4年生から6年生までの受け入れ拡大にも取り組んでいます。

いただいたご指摘は真摯に受けとめながら、受入れの拡大に取り組んでまいります。

5 自衛隊佐賀駐屯地について

駐屯地の工事を進める前に、県の環境アセスメントの話がありました。実際は、アセスメントを行っていません。

私は、環境アセスメントを実施したうえで、問題なければいいしダメなら改めればよいと思っています。

県の主導で何でも進んでいるように思えますが、市は県に対して意見をきちんと伝えているのか気になっています。

(市長)

駐屯地の環境アセスメントは、県の条例上、対象外となっています。

しかしながら、騒音や東よか干潟の渡り鳥、海苔への影響など、さまざまな懸念をお持ちの方もいらっしゃるかと思いますので、防衛省とは120点を超える質問を文書で確認し、合意事項という形で環境対策をしっかりと行うこととしています。

環境の現況調査を行い、乖離がないかモニタリングしてもらう対策や、地元も含めた協議会を設けて、部会の中で生活環境への影響がないか議論し、環境に問題が出ないように取り組んでいきたいと思っています。

6 県立大学について

県立大学設置の話が進んでいます。

事前協議会には佐賀市も入っていたようですが、市としてどんな意見を出されたのでしょうか。

例えば、佐賀大学に県が出資して新しい学部を共同で作るというならまだ分かります。全国的に少子化が進み、廃校になる大学も出ているなか、他所や地元から学生が入ってきても、卒業後に佐賀に残るとは限りません。

それよりも、市が打ち出している子ども支援や、産みやすく育てやすい環境づくりを先にすべきではないかという気がしています。

(市長)

全国的な少子化の流れはおっしゃるとおりですが、佐賀市の人口動態を見ると、ほとんどの年代において佐賀から出て行く人より、入ってくる人の方が多社会増の状況です。

しかしながら、学生や最初に働きはじめる世代、子育て前の若い世代にあたる18歳から25歳くらいの若い年齢層は県外へ流出する状況が続いていて、課題であると捉えています。

佐賀市は、県立大学を設置するなら、文化会館やSAGAアリーナ、駅や中心市街地にも近い佐賀市にぜひ設置してほしいと意見を伝えていました。学ぶ場があることで、地元で学んで地元で活躍することにつながってほしいという考えです。

1,000人規模の若い人たちが常時いる状態は、今後の担い手不足対策にもつながると思っています。

7 鍋島地区のまちづくりについて

私は、年金支給日に合わせ100名ほどの方にお弁当を配布する活動を、15年ほど続けています。

鍋島は歴史ある土地であり、医大ができて以降、福祉のまちづくりを徹底的にやれる地域だと思っています。一昨年前から鍋島地域の活性化と高齢者が元気で長生きできる場所づくりのため、地域の子どもたちや女性部と一緒に、玉ねぎ収穫祭という体験活動も始めました。

私たちでできることはやっていこうと思っていますが、行政とも助け合いながら鍋島地区全体で何か活動が進められたらと思っています。

「行政に頼んでおけばいい」という感じになるのではなく、自分たちの力で何かをやる、参加して一緒にやるという気持ちをもっと根づかせたいと思っています。

高齢者は高齢者なりにできることがあると思っています。介護施設が充実しているからそちらにお願いすればいいということでは、社会保険料の増加や国の財政の問題にも繋がります。

佐賀市も水道料金の軽減などいろいろ頑張っていただいているけれども、鍋島の中で

きることがあるはずだと思って取り組んでいます。

(市長)

15年も活動を続けておられるということは、本当に素晴らしいことだと思います。

鍋島は歴史ある校区で、鍋島家発祥の地でもあります。

たくさんの方が来られる養正まつりは、千人以上の方が参加されると聞いていますが、その立ち上げにも関わられたということで本当に頭が下がる思いです。

まちづくり協議会の皆さんも地域のために活動されていますが、地域ごとに様々な課題や悩みがあると思います。

市にも、地域コミュニティを担当する部署があります。

いろんな活動へのお手伝いや、困り事を関係機関へつなぐことなどをやっていきたいと思いますので、アイデアがあれば、ぜひご相談いただければと思います。

8 佐賀 JCT、新幹線について

佐賀 JCT と新幹線のことについて、市長としての考えをお聞かせてください。

(市長)

先日、有明海沿岸道路と佐賀唐津道路をつなぐ、佐賀 JCT が着工されました。

令和8年度には川副インターが開通する予定で、佐賀駅や佐賀空港のポテンシャルが上がっていくものと思っています。

佐賀唐津道路は、なかなか進捗が見えにくい部分があります。

佐賀道路のうち、佐賀 JCT から北に上がってくる部分については、県が事業を進めていますが、その先の多久佐賀道路Ⅱ期にあたる部分の工事を、国と県のどちらがやるのか定まっていない状況です。

鍋島校区の皆さんも、どこに相談すればよいか分からない、悩ましい状況だと思います。

先週は、熊本県、長崎県、福岡県の 26 市町で、国交省の整備局に直接出向いて、予算の増額や事業進捗について要望を伝えており、私も参加してきました。

引き続き、事業主体を国として早く決めて進めてもらうよう、粘り強く働きかけてまいります。

新幹線につきましては、通常の国の新幹線整備スキームが、路線を徐々に伸ばしていき、伸びた路線によって効果が生じるため、地元も負担するという内容になっています。

しかしながら、佐賀は、武雄温泉から長崎までを先に整備してしまい、新鳥栖から武雄温泉までが未整備で残っているという非常に珍しいパターンです。

その区間は、フリーゲージトレインで在来線を通行し、大きな財政負担を避ける形で合意していました。

現在は、国から「フリーゲージトレインの開発が技術的に困難になったので、フル規格の新幹

線を通します。地元が負担してください」という話になっています。

このような経緯は、佐賀にしかない特殊な事情であり、地元負担の軽減や、在来線の利便性を損なわない配慮が必要だと思っています。

これは「佐賀が悪くて、長崎が要望している」という単純な構図ではなく、新幹線整備を進めたいのであれば、長崎も JR も、国に「特殊な事情なんだから、その影響を受ける地域の事情を汲んでください、配慮してください」ということを一緒に求めるべき話だと思います。

大村市長や諫早市長、長崎市長にもこのような話をしており、長崎市長とは個別によく意見交換しています。昨年 10 月の九州市長会では、全会一致で、今私が申し上げたように、影響を受ける地域に配慮し、国の責任で特別な配慮や代替案も含めて考えるべき、という決議をしました。

JR にも同じことを申し上げたいと思っています。JR として早く進めたい気持ちはわかりますが、その負担は佐賀に大きくかかります。

1,400 億円を超えるような負担を佐賀がする一方で、時短効果などの大きな効果は長崎側にある。もともとそういう問題があったからこそ、在来線を活用するフリーゲージトレインで合意していたのに、技術的に困難だから地元負担をお願いしますというのは違うのではないかと、ということです。

(参加者)

市長個人のお考えはよくわかりました。

この問題は佐賀市だけの問題じゃないと思います。佐賀県内の市長会で、みんなが一緒になって行動することで前に進むのではないのでしょうか。

私は 80 年生きてきて、一人で物事が進むということは絶対ないと感じています。何ごとも周りとの相談があってこそです。今回の問題も費用がかかることは分かっていますが、もう何年もこんな状態が続いて、若い人たちに「いつの間にかこんなに長い間、佐賀に新幹線が通らなかった」という思いを与えてしまうのは、おかしいと感じます。

ジャンクションの問題も同じで、だいぶ前から始まっていたのに、最近は鍋島の中で話を聞かなくなりました。道がどう繋がって、どう便利になるのか、見えにくいんです。唐津は博多からの道がすごく綺麗になって利用も進んでいます。思いを持って進めれば、どこかで合致するところがあるはず。市長だけじゃなく、県も国会議員も一緒になって集中的に動くしかないと思います。

今日はそういう思いで質問させていただきました。ありがとうございました。

9 PTA 活動について

私はこの鍋島で子供 3 人を育ててきて、PTA 活動に参加してきましたが、本当によかったと思っています。

子ども会を通して地域の皆さんと関わり、地域のお祭りでは父親委員となって、今もイ

ベントのステージに向けて準備を頑張っているところです。

一方で、九州 PTA 大会に参加して、佐賀市 PTA や他の方々と話すと、校区によっては PTA 活動の参加者がいないとか、ボランティア制になった、PTA 自体がなくなる、という話もあります。

佐賀市の PTA のあり方について、どのように考えておられるか教えていただければと思います。

(市長)

佐賀は、PTA 活動が、比較的活発な地域ではないかと思います。

私の上の子どもも小学校に通っていて、学校運営協議会やコミュニティスクールで、学校と地域が密に関わっていたり、PTA 活動に熱心だったりします。

私たちが育った時代と比べて学校現場もかなり変わってきていて、保護者の関わり方も、子どもが関われる機会も、またいろんな形に変わってきています。

その中で PTA の皆さんで活動することは大切だと思っています。

私も PTA の方々と意見交換していますので、これからもこの関係を大切にしながら、一緒に前に進めたいと思います。

10 植木橋木角線、介護予防講演会、相談の場について

植木橋木角線が、いつまで経っても完成しないので気になっています。

それから、昨年秋に理学療法士でお笑い芸人の方の講演会（介護予防講演会）がありましたが、とても面白くて毎年でもしてほしいと思いました。ぜひまた今年も実施してほしいです。私自身、介護をしている立場なので、とても良い気分転換になりました。

今、私の身の回りでいろんな問題が起きていて、毎日不安な日々を過ごしています。

私のところには民生委員がいらっしやらないので、市役所の弁護士相談など公的な相談窓口にも行きます。

公民館を巡回して、地元ならではの問題や近隣トラブルなどを聞いてもらえるような場があるといいと思います。

(市長)

まず道路のお話ですが、植木橋木角線は、校区内の渋滞緩和にも効果があるので、早期整備を進めていきたいと考えています。関係者の皆さんと用地交渉などについて、調整、協議を進めており、早期の整備を進めていきたいと思っています。

それから、お話しいただいた講演は、去年の 11 月にアバンセで行われた介護エンターテイナーの石田さんの講演ですね。非常に好評だったということですので、担当部署にも今日頂いたお声を伝えて、また考えていきたいと思っています。

最後のお話は、抱えておられるお悩みをどこに相談すれば良いか分からず悩んでおられるということですね。

福祉まるごと相談窓口もご利用いただけたらと思いますし、ここで話しにくいことであれば、後ほど、秘書課でお話をお聞きし、関係部署につなぎたいと思います。

11 交通安全対策について

鍋島と高木瀬をつなぐ植木橋木角線は、佐賀北郵便局への交通の便がよくなると思いますので、早く整備していただきたいと思います。

それに合わせて、交通安全対策もお願いしたいです。

小城や大和からの車両が増えて、交通量が増えると思います。南北の道路、例えば津留や蛸久あたりから植木橋木角線に交差する比較的大きな道路が 2、3 本ありますが、そこには中央線がありません。

今年の秋の道路交通法の改正で、中央線がない道路は 30km/h になるそうです。

標識設置は警察かもしれませんが、一応市道ですから、植木橋木角線に接続する道路につきましても、標識などの交通安全対策、それと交差点での交通事故を防ぐ施策をぜひお願いしたいです。

(市長)

お話しいただいたように、今年の9月から道路交通法の改正で、これまで 60 km/h までだったところも、中央線がない道路は 30 km/h に引き下げられることとなります。

市報や出前講座なども活用しながら、できるだけ、わかりやすい周知と必要な情報発信に努めてまいります。

また、警察とは交通事故防止と安全確保のため、交通対策協議会を開いて定期的に意見交換していますので、今回の改正も含め、しっかり話し合っていきたいと思います。